

平成30年度

校内研修のまとめ



新見市立新見第一中学校

はじめに

今年度校内研修を進めるにあたって、昨年度の実践から次のような改善点が挙げられた。

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善については成果が見られており、引き続き研修や公開授業を行う。
- ・本校は毎年新採用者が配置されており、若手教員の指導力の向上が求められている。特に、学級経営については研修を受ける機会が限られているので、生徒指導の研修を実施する必要がある。
- ・平成 31 年度から全面的に実施される「特別の教科 道徳」の教科化に向けて、評価資料の検討の研修を行う必要がある。

以上 3 点の改善点を踏まえた校内研修を実施することとした。

目 次

1	校内研修を進めるにあたって	P1～3
	○学校教育目標・研究主題	
	○研修計画	
	○学力向上プラン	
2	校内研修・公開授業の実践記録	P4～57
	○校内研修（6回）	
	○公開授業研修会	
	○家庭学習懇談会	
	○初任者公開授業研修会	
	○国際理解公開授業	

平成30年度 学校教育目標及び校内研究主題

新見市立新見第一中学校

<教育目標>

はつらつと心豊かにたくましく生きる生徒の育成

<研究主題>

主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して

<研究主任> 八木真澄

<研究計画の概要>

(1) 教科別研修

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行なう。生徒が主体的に学び、基礎的・基本的な知識や技能を着実に修得しながら学び合い、次の学習に生かそうとする態度の育成に向けて、効果的な指導方法を探る。

(研修方法)

教科横断型メンバーで研修チームを編成し、教科指導の研修を深める。10月に各チーム1名が公開授業を計画し、それに向けて協働で授業デザインをつくり、指導案作成や授業のふり返しを行なう。

(2) 生徒間の人間関係づくり研修

学級の集団づくりにおける、生徒相互の関係性を高めるための手法（ソーシャルスキル、グループエンカウンター、ピアサポート）を研修により学び、実践に役立てる。

(研修方法)

岡山県総合教育センターの学校力向上サポートキャラバン事業を活用し、年間2回講師を迎え、講義・演習を行なう。

(3) 分掌別研修

チームごとに、事例研修やOff-JTの伝達、情報交換等の研修を行なう。特に道德教育については、来年度の教科化に向けたより実践的な研修を行なう。

(設定部会)

道德教育、特別活動、キャリア教育、特別支援教育

(4) OJT 課題研修

OJTメンバーが自己の目標に向かって研修を進める中で、OJTチーム研修を行ない、各々の課題をふり返し、悩みを相談したりアドバイスをしたりして研修を深める。

(5) まとめと評価

研究実践の記録と評価をまとめ、次年度につなげる。

平成30年度 校内研修実施計画

1 教科別研修チーム（教科を超えたメンバーでの研修チーム編成）

教科	公開授業者	実施日	メンバー
国語科	八木	・10月23日	三上、春名、中村
数学科	小林な	・10月23日	小林よ、安田、小割、後藤け
社会科	有西 ①	・10月23日 ・12月	羽柴、堀江、松永、重村
保健体育科	前原 ①	・10月23日 ・12月	羽柴、飯田、上仲、横見
技術・家庭科	藤野 ②	・10月23日	白神、谷岡、岡崎、中山

注1 ①・・・初任教員 ②・・・2年目教員

注2 初任教員・2年目教員の教科についてはOJTチーム研修として位置付ける

注3 初任教員は12月に新見市教育委員会の指導訪問を受ける

10月23日の位置づけ

○国語科授業改善研修会・・・文科省指導訪問、県下小中学校へ公開

○校内研修授業研究会・・・校内研修（授業・研究協議）を市内小中学校へ公開

2 校内研修予定

実施日		テーマ 内容	研修形態・協力機関
第1回	6月	学級の集団づくりにおける、生徒相互の関係性を高めるための手法（ソーシャルスキル、グループエンカウンター、ピアサポート）を研修により学ぶ	全体研修 岡山県総合教育センター 学校力向上サポートキャラバン
第2回	7月	公開授業に向けて ～授業デザインの検討～	教科別研修
第3回	10月23日	公開授業 研究協議	公開授業研修 文部科学省 岡山県総合教育センター 新見市教育委員会
第4回	10月	実践を通して得られる課題や効果について検証し、更なるスキルアップを研修により学ぶ。	全体研修 岡山県総合教育センター 学校力向上サポートキャラバン
第5回	12月	初任者授業研修 社会科・保健体育科	新見市教育委員会 初任者指導訪問

3 分掌別研修

実施日		テーマ 内容	研修形態・協力期間
第1回	1月	Off-JTの伝達講習（道徳）	全体研修
第2回	2月	Off-JTの伝達講習 （キャリア、特別支援、特別活動）	部会別研修

平成 30 年度 学力向上プラン全体計画

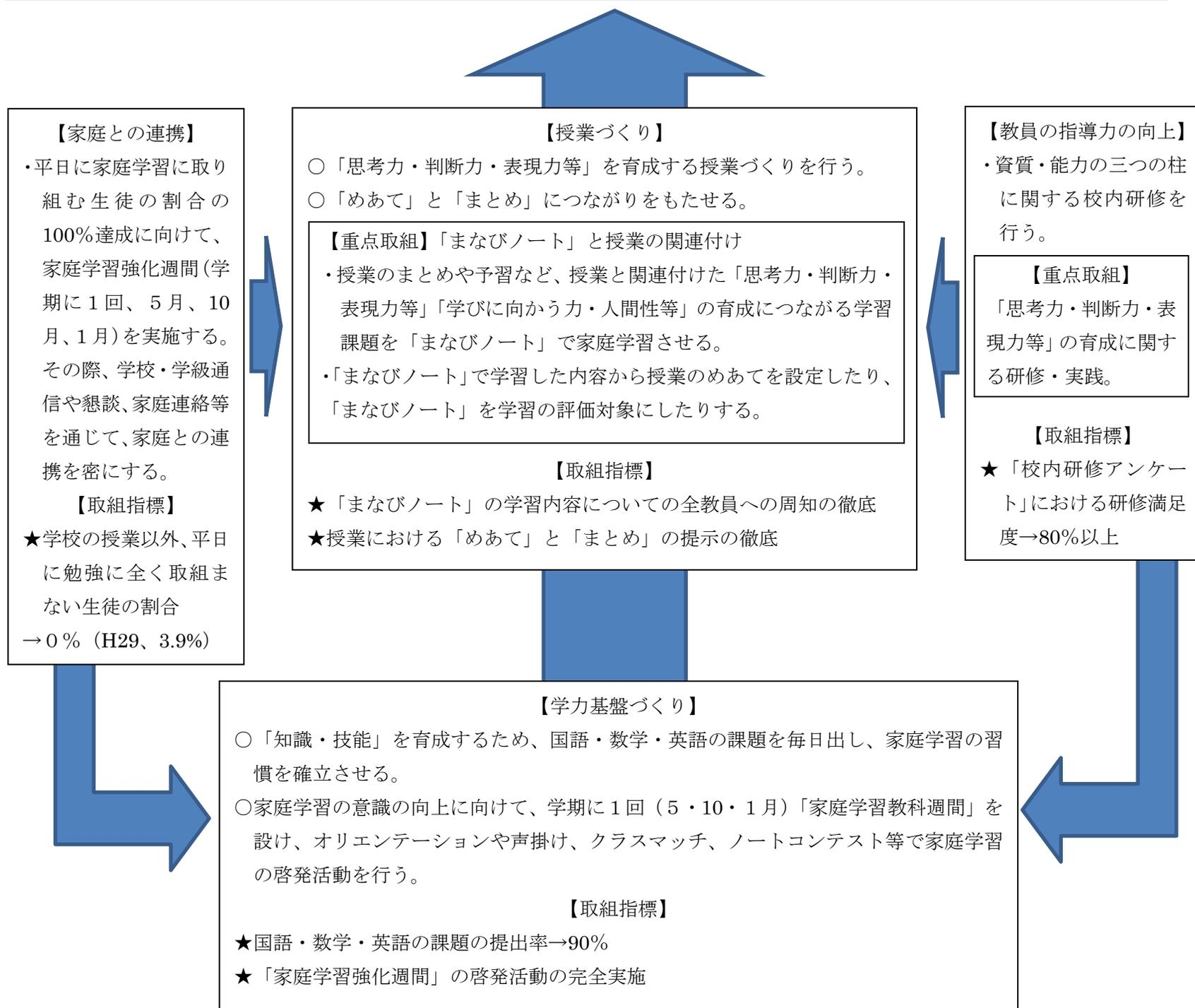
新見市立新見第一中学校

【中期目標】「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。

【中期指標】「まなびノート」(自主学习)を中心とした家庭学習が、「思考力・判断力・表現力等」(「学びに向かう力・人間性等」)の育成につながるように、授業と関連させた課題を各教科担当で示し、生徒の実践を促す。

【短期目標】「知識・技能」の確実な定着のため、家庭学習に取り組むことができる生徒の育成を目指す。

【短期指標】平日家庭学習に1時間以上(1年生80分、2年生90分、3年生100分)取り組む生徒を70%以上に増やす。



《生徒の学力の課題及び要因の考察》

- <学力の課題>・H29 年度全国学力調査において、国語では文章の内容や語句の意味を適切に理解すること、相手に分かりやすいように言葉や資料を選んで話すことに課題がみられた。数学では主として知識に関する問題において全国と正答率に差がみられ、生きて働く「知識・技能」の定着が求められる。(本校 61.0%、岡山県 64.0%、全国 64.6%)
- ・H29 年度学習状況調査において、平日家庭学習に1時間以上取り組む生徒の割合が全国平均・岡山県平均を大幅に下回っている。(本校 49.3%、岡山県 59.2%、全国 69.6%)
- ・学校評価においても生徒、保護者、教員の全てで「家庭学習」の項目が低い。家庭学習の確立が課題である。
- (要因) ・「知識・技能」の習得や、「思考力・判断力・表現力等」の育成を促す学習活動や家庭学習の検討が必要である。
 ・家庭学習の課題の提示の仕方(学習内容)が生徒の実態に即していない部分がある。

本年度実施した校内研修・公開授業等

- 第1回 校内研修 「児童生徒の人間関係づくり」 P 6～
岡山県総合教育センターより
- 第2回 校内研修 「授業デザインの検討」 P11～
研究主任より
- 第3回 校内研修 「道徳教科化に向けて」 P14～
道徳教育推進教師より
- 第4回 校内研修 「教師と生徒の信頼関係づくり」 P16～
岡山県総合教育センターより
- 第5回 校内研修 「公開授業研修会」 P20～
公開授業1 数学
公開授業2 総合的な学習の時間 【新見市 ICT 活用教育推進授業】
公開授業3 国語 【岡山県授業改善研修会】
- 家庭学習懇談会 「家庭学習の充実」 P36～
岡山県教育委員会より
- 初任者授業研修会 「授業づくり」 P41～
新見市教育委員会より

JICA 海外協力隊より
- 第6回 校内研修 「道徳科における評価」 P52～
道徳教育推進教師より
- 国際理解教育授業研修会 「SDGs を取り入れた授業実践」 P56～

各種研修会の様子や、公開授業の様子を紹介します。



岡山県総合教育センター所長 殿

新見市立新見第一中学校
校長 後藤 秀則

平成30年度学校力向上サポートキャラバン（市）指導主事派遣申請書

次のように、関係者を派遣くださるよう申請いたします。

記

- 1 派遣者 生徒指導部 小田哲也 指導主事
- 2 期 日 平成30年6月6日（水）
- 3 場 所 新見市立新見第一中学校 被服教室
- 4 研修について
 - (1) 研修形態 校内研修
 - (2) 名称 児童生徒間の人間関係づくり
 - (3) 目的 学級の集団づくりにおける、生徒相互の関係性を高めるための手法（ソーシャルスキル、グループエンカウンター、ピアサポート）を研修により学ぶ。
 - (4) 内容 研修項目 [1 2]
関連した研修項目 [1 1]
研修方法 授業研究 講義 演習
研修内容の詳細
若手からベテランまですべての教員が、生徒相互の人間関係づくりや生徒理解の手法や心構えを学び、学校全体として同じスタンスで教育活動に当たるための研修を行なう。
日程
13:40～ 開会
13:45～14:45 講義・演習
14:50～15:05 ふりかえり
～15:10 閉会
- (5) 主催者 新見市立新見第一中学校
- (6) 参加者の範囲及び人数 新見第一中学校教職員 30名
- 5 派遣旅費負担区分 県総合教育センター負担 主催者負担
- 6 その他
 - ・校内研修計画書の送付
 - ・連絡先 新見市立新見第一中学校
担当者 主幹教諭 藤井幸治 教諭(研究主任) 八木真澄
電話番号 0867-72-0629
E-mail niimi.daiichijh.a00@gmail.com

上記のことを承諾します。

平成30年5月 日

教育委員会

教育長

(公印省略)

新見市立新見第一中学校 平成 30 年度学校力向上サポートキャラバン

第 1 回校内研修開催要項

平成 30 年 6 月 6 日 (水)

13 : 40 ~ 15 : 10

於 被服室

1 開会

2 講義・演習 「児童生徒間の人間関係づくり」

講師：岡山県総合教育センター 生徒指導部 指導主事 小田哲也先生

3 ふり返り

4 閉会

第1回校内研修

平成30年6月6日（水）被服室

平成30年度 学校力向上サポートキャラバン

「児童生徒間の人間関係づくり」

講師 岡山県総合教育センター 生徒指導部 小田哲也

1 アイスブレイキング

「うし？」と「うま？」が・・・・・・・・・・ 歓声上がるくらい盛り上がりました。



2 生徒指導とは

「自己指導能力の育成」・・・すべてのことが、ここに行き着く。

- ①自己存在感を与える
- ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場を与える

☆すべての教職員がすべての児童生徒を対象に

3 集団づくりの実際

求められる体験・・・集団の成熟段階に合わせる

活用できる心理教育の手法

- ①ソーシャルスキル教育（SSE）
- ②グループワークトレーニング（GWT）
- ③プロジェクトアドベンチャー（PA）
- ④グループエンカウンター（GE）

演習「私はどんな気持ち」

- ①感情、感覚、気持ちを表す言葉を書き上げよう
- ②表情としぐさだけで当ててもらおう

③状況を説明して当ててもらおう

④「照れる」表情を絵で描こう・・・照れる表情って、どんな時？

4 ソーシャルスキル教育とは

どのようにして身につけてきたか？・・・教えられて学ぶ／見て学ぶ

未学習→教える 誤学習→再学習

学校教育・・・予防的、開発的な教育

人間関係上のトラブル防止→人付き合いの楽しみ方

5 グループワークトレーニング

楽しみながらパティシペイターシップ※を養成すること

※自ら進んで積極的に参加し責任を分担する協働者

演習「人間カラーコピー」・・・廊下に貼ってある絵を描いてみよう

約束

・何度でもいいよ ・一人ずつだよ ・何か持って行ってはいけないよ ・5分間だよ

☆グループの考えや気持ちを汲み取ること

☆自分の考えや気持ちを表現すること

☆「振り返り」と「共有」が大切

○○さんが◇◇してくれて、よかった・・・

自分が◇◇して、よかった。

6 グループエンカウンターとは

「ふれあい」・・・本音と本音の交流／感情交流

「自己発見」・・・自分から見た私／自分の知らない私

→行動変容と人間的成長

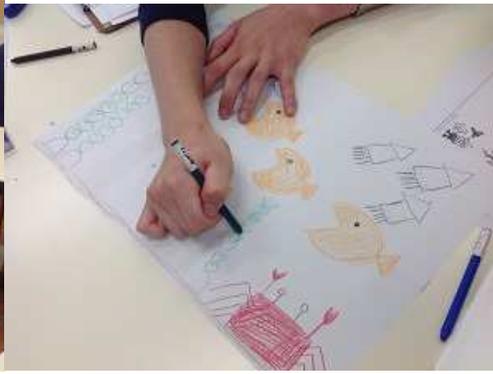
演習「わたしの夢・みんなの夢」・・・具体的な約束や指示をはっきり伝えること

①あなたの夢を描いてみよう

②あなたの夢をみんなの夢にしよう

7まとめ「相手の関心に関心をもつ」

- ・自分の関心ごとに関心をもってかかわってもらうと→心地よい／ホッとする／気づき
- ・相手の関心に積極的に関心をもってかかわると→よくわかる／親近感／正しい距離感や関わり方



第2回校内研修

平成30年7月18日(水)
職員会議終了後～

○公開授業に向けて、授業デザインの検討

校内研究主題	主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して
教科	
授業者	
単元	
指導事項	
授業デザイン	

今後のスケジュール

- 7月19日(木) 授業デザイン提出
- 8月24日(金) 指導案提出
- 9月中 指導案点検・修正
- 10月初旬 公開授業に向けて最終打ち合わせ
- 10月23日(火) 公開授業(藤井/白神・小林・八木)
- 12月上旬 新見市指導訪問(有西・前原)

総合的な学習の時間 授業デザイン

校内研究主題	主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して
教科	総合的な学習の時間
授業者	藤井幸治／白神栄治
単元	課題別チーム学習の発表に向けた準備をしよう
指導事項	課題解決に向けて企画・運営・評価が主体的に行なうことができる
授業デザイン	<p>○プログラミング学習</p> <p>チームごとに、成果発表の場面でペッパーが効果的に使用できるようなプログラミング開発を行なう。チームごとに進捗状況が異なるので、教師は、一斉指導ではなく、個別指導にあたる。</p> <p>○選択型プロジェクト学習</p> <p>チームごとに、成果発表の場面でタブレット PC でのプレゼンやペッパーとのやり取りなどを効果的に組み合わせる作業を行なう。教師は、一斉指導ではなく、個別指導に当たる。</p>

話し合いのルール

- ① 自分の意見は必ず理由をつけて言う。
- ② 他の人の意見に、はっきり賛成か反対かの態度表明をする。
その際、理由をはっきり言う。
- ③ 意見を変えてもよい。ただし、その理由を言うこと。

第3回校内研修

平成30年8月24日(金)
15:00~16:00
於 被服室

1 開会

2 研修「来年度の道徳教科化に向けての取り組み」

(1) 授業時数の確保

(2) 授業改善

(3) 「道徳科の評価」に向けての取り組み

3 振り返り

4 今後のスケジュール

8月24日(金)	指導案提出
9月中	指導案点検・修正
10月初旬	公開授業に向けて最終打ち合わせ
10月23日(火)	公開授業(藤井/白神・小林・八木)
12月上旬	新見市指導訪問(有西・前原)

5 閉会

第3回 校内研修のまとめ

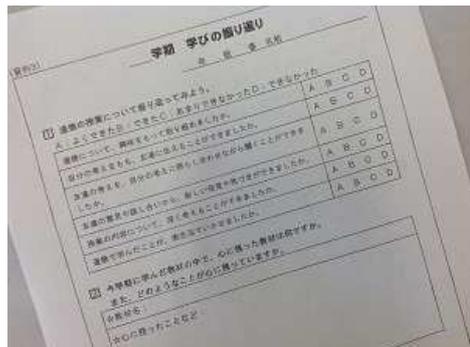
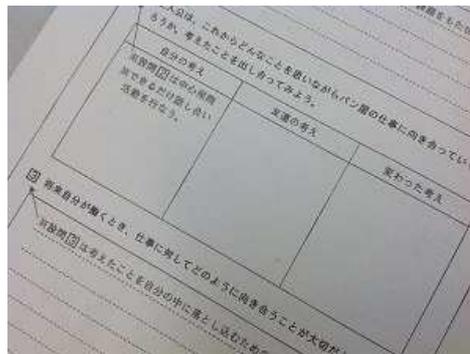
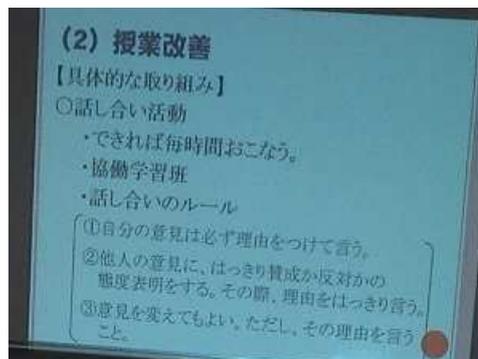
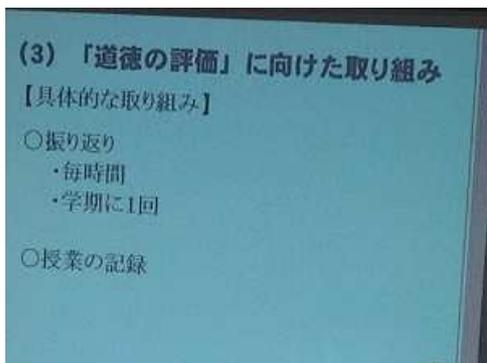
テーマ 道徳教科化に向けて

協議内容

次年度からの道徳教科化に向けた最終準備として、2学期に行う道徳授業を想定して、①授業時数の確保、②授業改善、③評価に向けての取り組み、の3点について、道徳教育推進教師が中心となり、より深く具体的な研修を実施した。

重点目標

- 評価の基礎資料となる、授業振り返りシート等の定着をはかる。
- 道徳授業実践の記録（職員室掲示）を作成し、全職員への意欲付けをはかる。



岡山県総合教育センター所長 殿

新見市立新見第一中学校
校長 後藤 秀則

平成30年度学校力向上サポートキャラバン（市）指導主事派遣申請書

次のように、関係者を派遣くださるよう申請いたします。

記

- 1 派遣者 生徒指導部 石原亜純 指導主事
- 2 期 日 平成30年10月10日（水）
- 3 場 所 新見市立新見第一中学校 被服教室
- 4 研修について
 - (1) 研修形態 校内研修
 - (2) 名称 教師と生徒の信頼関係づくり
 - (3) 目的 学級の集団づくりにおける、教師と生徒との人間関係づくりについて講義・演習を通して研修により学ぶ。
 - (4) 内容 研修項目 [10]
関連した研修項目 [12]
研修方法 授業研究 講義 演習
研修内容の詳細
若手からベテランまですべての教員が、教師と生徒との人間関係づくりや生徒理解の手法や心構えを学び、学校全体として同じスタンスで教育活動に当たるための研修を行なう。
日程
13:40～ 開会
13:45～14:45 講義・演習
14:50～15:05 ふりかえり
～15:10 閉会
- (5) 主催者 新見市立新見第一中学校
- (6) 参加者の範囲及び人数 新見第一中学校教職員 30名
- 5 派遣旅費負担区分 県総合教育センター負担 主催者負担
- 6 その他
 - ・連絡先 新見市立新見第一中学校
担当者 教諭(研究主任) 八木真澄
電話番号 0867-72-0629
E-mail niimi.daiichijh.a00@gmail.com

上記のことを承諾します。

平成30年 月 日

教育委員会

教育長

(公印省略)

新見市立新見第一中学校 平成 30 年度学校力向上サポートキャラバン

第 4 回校内研修開催要項

平成 30 年 10 月 10 日（水）

13：40～15：10

於 被服室

- 1 開会

- 2 講義・演習 「教師と生徒の信頼関係づくり」
講師：岡山県総合教育センター 生徒指導部 指導主事 石原亜純先生

3 ふり返り

4 閉会

第4回校内研修

平成30年10月10日（水）被服室

平成30年度 学校力向上サポートキャラバン

「教師と生徒の信頼関係づくり」

講師 岡山県総合教育センター 生徒指導部 石原亜純

1 コミュニケーションの在り方

○言葉によらない関係づくりが重要

- ・二人の距離、角度
- ・教師の姿勢（身体全体）、視線、表情
- ・生徒の声の調子、呼吸、服装、身だしなみ、姿勢（身体全体）

○コミュニケーションにおける言語（言葉）・準言語（声の調子、口調）、非言語（表情・動作）の割合

言語：準言語：非言語＝7：38：55

○言葉と同じメッセージを態度で示すことが重要



2 聴く効果

◎演習①聴き方「先生、うちの親が勉強、勉強ってうるさくて、嫌なんだよね。」

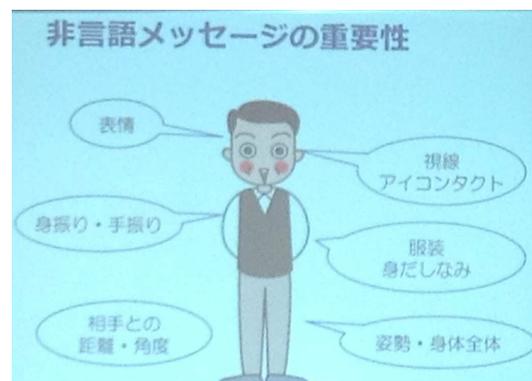
○上手に聴くコツ

感情の明確化＝うまく言葉にできない感情の言語化が重要

「～という気持ちなんだね」

○沈黙の意味を考える

○聴くことで生徒の意欲の向上を図ることができる



3 プラスのメッセージで伝える

◎演習②リフレーミング「気になる私一見方を変える」

○リフレーミングで行為に価値を与える

先生、うちの親が勉強、勉強ってうるさくて、嫌なんだよね。

<先生の状況①> (30秒)
あと5分で提出物を点検しなければならぬため、子供の話を親身になって聴くことができない
相手を見ない/作業(仕事)を止めない/生徒を叱る/関心を示さない/質問しない/うなずかない/等

役割チェンジ!

<先生の状況②> (30秒)
反動的な態度をとる子供の指導を済ませた直後で、気持ちが曇っている
曇つさや表情が暗い/目を下や側を向く/一方的な意見を述べ/威嚇する/叱る/脅そうな相づちを打つ/等

4 ほめる・指導する

○他者からの評価に価値を与えるのではなく、行為そのものや過程に価値を与える I
メッセージで伝えると良い。

○問題行動を起こした生徒への指導のねらい

→希望を持たせる指導を行い、生徒の自己指導能力を高める。

○心の扉を開く三つのプロセス

- ・One-ness (相手のことをねぎらう) …「分かろう」とする
- ・We-ness (一緒に考える) …一緒に考えようと提案する態度
- ・I-ness (指導性) …自分の気持ちと考えを表明



5 おわりに

○効果的な指導・支援を進めるために大切なのは、信頼関係。



平成30年9月25日

新見市内各小中学校長 様

新見市立新見第一中学校
校長 後藤 秀則

公開授業研修会のご案内

秋冷の候、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、公開授業研修会につきまして、次の通り計画いたしましたので、ご多用の折とは存じますが、希望の先生方のご参加をよろしくお願い申し上げます。

記

- 1 期 日 平成30年10月23日(火)
- 2 会 場 新見市立新見第一中学校
- 3 研究主題 「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して」
- 4 日 程
10:30~11:20 **公開授業①**
教科・学年 **数学 2年4組**
単 元 「一次関数の利用」
指導者 小林奈津子

公開授業② 【新見市 ICT 活用教育推進事業】
教科・学年 **総合的な学習の時間 3年3組**
単 元 プログラミング的思考を取り入れた課題別探究学習
指導者 藤井幸治・白神栄治

11:30~12:20 **研究協議①(数学)、 研究協議②(総合的な学習の時間)**

13:30~14:20 **公開授業③ 【岡山県授業改善研修会】**
教科・学年 **国語 3年4組**
単 元 「おくのほそ道」の批評文を推敲しよう
指導者 八木真澄

14:35~15:35 **研究協議③(国語)**

15:45~16:45 **指導助言・講義**
指導助言者 国立教育研究所教育課程研究センター研究開発部
学力調査官(国語) 黒田 論 氏
- 5 参加申し込みについて
 - ・公開授業①については、メール(書式自由)で新見第一中学校(教頭)までお願いします。 E-mail niimidaiichi-jhs@city.niimi.okayama.jp 締切 10月19日
 - ・公開授業②③については、別途案内により申込み願います。

10月23日(火) 公開授業日 タイムスケジュール

			数 学	総合的な学習の時間	国 語
			2年4組 小林奈津子 2年4組教室	3年3組 藤井幸治・白神栄治 パソコン教室 3年3組教室	3年4組 八木真澄 体育館特設教室
8:10~8:20	朝の会				
8:30~9:20	1限授業				
9:30~10:20	2限授業				
		10:00~			
		10:25			
10:30~11:20	3限授業	受付	公開授業 数学	公開授業 総合的な学習	
11:30~12:20	4限授業		研究協議 応接室	研究協議 パソコン教室	
12:25~12:55	給食				
	昼休み	12:50~			
		13:20			
13:30~14:20	5限 自習	受付 控室(図書室)			公開授業 国語
14:25~14:35	下校				
14:35~15:35					研究協議 体育館
15:45~16:45					指導助言・講義 体育館

○体育館は前日から国語用特設教室のセッティングをしておく(体育授業なし・体育館使用禁止)

○駐車場はグラウンド(前日にラインを引く)

○臨時時間割(自習を含む)を組み、多くの教員が参観できるようにする。

第2学年4組 数学科学習指導案

平成30年10月23日(火) 第3校時 2-4教室 指導者 小林 奈津子

1 単元名「一次関数」

2 単元の目標

- ・ 具体的な事象を一次関数とみなし、一次関数を利用して問題を解決しようとしている。
[数学への関心・意欲・態度]
- ・ 一次関数について、表・式・グラフを相互に関連付けて理解することができる。
[数量や図形などについての知識・理解]
- ・ 一次関数の特徴を理解し、表・式・グラフで表すことができる。また、二元一次方程式を関数を表す式とみてグラフで表すことができる。
[数学的な技能]
- ・ 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる。
[数学的な見方・考え方]

3 単元の評価規準

数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な技能	数量や図形など についての知識・理解
様々な事象を一次関数として捉えたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	一次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	一次関数の関係を、表、式、グラフを用いて的確に表現したり、数学的に処理したり、二元一次方程式を関数関係を表す式とみてグラフに表したりするなど、技能を身に付けている。	事象の中には一次関数として捉えられるものがあることや一次関数の表、式、グラフの関連などを理解し、知識を身に付けている。

4 指導と評価の計画（全18時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	考	技	知	
一	1 ・ 2	一次関数の意味を理解し、身のまわりの事象の中から一次関数をみいだす。	◎			○	身のまわりの事象から、一次関数とみられるものを見つけようとしたり、表現しようとしたりする。また、一次関数の意味をしている。 【観察・発表】
二	1 ・ 2	一次関数の値の変化を考察し、変化の割合について理解する。			○	◎	変化の割合について理解し、手際よく求めることができる。 【観察・発表・ワークシート】
三	1	一次関数のグラフの特徴を理解する。		◎		○	一次関数のグラフの特徴を、比例のグラフをもとに考え、グラフのかき方についてまとめることができる。また、一次関数のグラフの傾きや切片について理解している。 【観察・発表・ワークシート】

	2 ・ 3	一次関数のグラフをかく。			◎		一次関数のグラフをかくことができる。 【観察・発表・ワークシート】
四	1	一次関数のグラフから、傾きと切片を読み取って式を求める。			◎	○	一次関数の式を求める方法を理解し、手際よく求めることができる。 【観察・発表・ワークシート】
	2	傾きとグラフ上の1点の座標から式を求める。			◎	○	一次関数の式を求める方法を理解し、手際よく求めることができる。 【観察・発表・ワークシート】
	3	グラフ上の2点の座標から式を求める。			◎	○	一次関数の式を求める方法を理解し、手際よく求めることができる。 【観察・発表・ワークシート】
五	1	二元一次方程式と一次関数の関係を見いだす。			◎		二元一次方程式を一次関数と見いだすことができる。 【観察・発表・ワークシート】
	2	二元一次方程式のグラフをかく。			◎	○	二元一次方程式のグラフの意味とそのかき方を理解し、そのグラフを手際よくかくことができる。 【観察・発表・ワークシート】
六	1	連立方程式の解とそのグラフの交点の座標との関係を理解し、2直線の交点の座標を、連立方程式を用いて求める。			○	◎	連立方程式の解とグラフの交点の座標の関係を導きだし、その関係をもとに、グラフの交点を求めることができる。 【観察・発表・ワークシート】
七	1 本時	具体的な事象を一次関数とみなし、一次関数を利用して問題を解決する。			◎	○	具体的な事象から一次関数を見いだし、一次関数を利用して問題を解決することができる。 【観察・発表・ワークシート】
	2	グラフに表された関係から、様々な事柄を読み取り、問題を解決する。			◎	○	一次関数を利用して問題を解決することができる。 【観察・発表・ワークシート】
	3	実験で得られた数値の変化や同点の様子を一次関数と見なし、推測する。			◎	○	問題を解決するために見いだした一次関数を、式やグラフなどに表し、問題を解決することができる。 【観察・発表・ワークシート】
八	1・ 2	問題練習			○		学習内容を振り返りながら、問題を解決することができる。 【観察・発表・ワークシート】

5 指導上の立場

○単元観

第1学年では、具体的な事象における2つの数量関係の変化や対応を調べ、関数関係について理解し、比例、反比例を関数としてとらえ直した。そこでは、変数と変域や座標について理解するとともに、比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴をとらえ、比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明することを学習している。

第2学年では、一次関数の変化の割合を学ぶことで、一次関数の特徴を知る。そして、その特徴を表や式、グラフでとらえるとともに、それらを相互に関連付けることで、一次関数についての理解を深める。これらの学習を通して、具体的な事象の中から関数関係を見だし表現し考察する能力を養いたい。

○生徒観

全体的に落ち着いており、指示に従って活動に取り組むことができる生徒が多い。また、生徒同士で教え合う「助け合い学習」が活発である。

定期テストや県学力調査の結果から、基礎的・基本的な知識及び技能は身に付いているが、数学的な表現や用語を用いて考えを示したり、理由を説明したりすることに課題が見られた。全国・県学力調査の活用問題（B問題）を授業に取り入れるなどして、数学的な表現力を高めていく必要がある。

○指導観

本時では、具体的な事象から一次関数を見だし、一次関数を利用して問題を解決する態度を育てたい。そのために、グラフの有用性に気づかせたい。また、課題である表現力を高めるために、自分の考えを書く活動を取り入れたり、グループ活動で自分の意見を発表する場面を設定したりする。さらに、多くの情報から必要な情報のみを読み取る情報処理能力もあわせて高めたい。

○研究主題との関連

本校の研究主題は「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して」である。生徒が主体的に学び、基礎的・基本的な知識や技能を着実に修得しながら学び合うために、協働学習での活動を積極的に取り入れている。また、主体的・対話的で深い学びとなるように「岡山型学習指導のスタンダード」に示された「授業5」を取り入れた授業改善を進めている。

○全国・県学力調査との関連

全国学力学習状況調査B3(3)は「事象を数学的に解決し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題で正答率は8.6%、県学力状況調査11は「具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、グラフから水そうの形を判断する」問題で正答率は20.5%であった。これらの結果から、「具体的な事象を数学的に解決する能力」と「数学的な表現力」が著しく低いことがわかる。よって、本時は携帯電話の料金プランという具体的な事象を一次関数と見なし、一次関数を利用して問題を解決することをねらいとしている。また、数学的な表現力を養うために、調べた過程やその結果について説明し伝え合う活動を取り入れている。

6 本時案（第7次 第1時）

(1) 本時の目標

具体的な事象から一次関数を見だし，一次関数を利用して問題を解決することができる。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 本時の学習課題を知る。</p>	<p>○これまでに学んだ一次関数について確認する。 ・一次関数の基本式 ・グラフのかき方 など</p> <p>○3つのプランを提示する。 (Aプラン) 基本料金700円に加え，通話時間1分ごとに45円かかる。 (Bプラン) 基本料金1600円に加え，通話時間が60分をこえると，こえた分の通話時間1分ごとに40円かかる。 (Cプラン) 基本料金2400円に加え，通話時間が140分をこえると，こえた分の通話時間1分ごとに35円かかる。 ○基本料金＋通話料金であることを確認する。</p>	<p>○身のまわりの事象の中から，一次関数を見だし，それを利用して問題を解決することができたか。(数学的な見方・考え方)</p>
<p>めあて 「一番お得なプランを見つけよう！」</p>		
<p>3. どのプランがお得か予想する。</p> <p>4. お得なプランを選ぶための手段を考える。</p> <p>5. 協働学習班でどのプランがお得か考える。 (1) 手段を決める。 (2) どのプランがお得か考える。 (3) 考えをまとめる。 (4) 考えを発表する。</p> <p>6. 本時のまとめをする。</p> <p>7. 振り返りをする。</p>	<p>○何分通話するかについては言わない。 ○自由に考えさせる。 ○自分の考えをノートに書かせる。 ○選んだプランに挙手をさせる。 ○何人か指名し，理由を述べさせる。</p> <p>○この事象が関数であることから，表，式，グラフを使って考えることに気づかせる。 ○通話時間をx分，料金をy円とすることを確認する。</p> <p>○表，式，グラフの中から選ばせる。</p> <p>○通話時間と料金の関係を一次関数と見なせることに気づかせる。</p> <p>○通話時間によってお得なプランが変わることに気づかせ，このことをふまえて考えをまとめさせる。 ○発表用のワークシートに記入させる。 ○各自のノートにもまとめさせる。</p> <p>○いくつかの班に発表させる。</p> <p>○この時間に学習したことを確認する。 ○グラフの有用性を確認する。</p> <p>○振り返りをノートに書かせる。</p>	<p>○問題を解決するために見いだした一次関数を，手際よく式やグラフなどに表すことができたか。(数学的な技能)</p>

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例
身のまわりの事象の中から，一次関数を見だし，それを利用して問題を解決する方法を考えることができた。

平成30年10月23日(火) パソコン教室・3年3組教室 指導者 藤井幸治・白神栄治

1 単元名 プログラミング的思考を取り入れた課題別探究学習

～ロボット・プログラミング学習とプロジェクト学習をリンクさせることで、
課題解決方法を論理的に考える「プログラミング的思考」を育成する～

2 単元設定の理由

次期学習指導要領では、教科等を越えた全ての学習の基盤としてはぐくまれ活用される資質・能力のひとつとして、情報活用能力があげられている。なかでも今、子どもたちが、「身近なものにもコンピュータが内蔵され、プログラミングの働きによって生活の便利さや豊かさがもたらされているということ」について理解し、そうしたプログラミングを、自分の意図した活動に活用していけるようにすることは、ますます重要になっている。また、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても、プログラミング教育によって身につく「プログラミング的思考」は、時代を超えて普遍的に求められる能力ともいえる。

こうした情勢の中、新見市内小中学校は、昨年度より SoftBank Group による「Pepper 社会貢献プログラムスクールチャレンジ」が採択され、専用のプログラミング機器を用いた実践的なプログラミング学習がスタートして1年以上が経過した。

本校では、プログラミング学習を総合的な学習の時間で実施するプロジェクト学習（課題解決に向けて企画・実施・まとめ・発表・ふり返り）の一環としてとらえ、プログラミングの技術的な要素の習得だけではなく、将来子どもたちが生きる社会で必要と予想される「協力してものを創造する力」や「様々な情報をもとに、最善の答えを導き出す力」を育成していくことをねらいとしている。本年度は特に、昨年度から培ってきたプログラミングの学習をもとにして、プロジェクト学習発表会で、「プログラミングされたロボットを用いたりタブレットPCのプレゼンテーション機能を用いたりして、学習の成果を効果的に相手に伝える」ことに重点を置き、発表会というゴールまでの道筋をイメージした授業展開を心がけている。

3 単元の目標

- プログラミングの技術や論理的な思考を身近な場面で応用することを通して、ロボットと社会との関連や将来への活用について考えることができる。
- 共通の目的の達成に向けた協働的な学習を通して、自己の学びのよさを見つめ、発信する。

4 単元の評価規準

評価の観点	課題設定の力	情報活用の力	将来展望の力	社会参画の力
評価規準	身近な生活の中から課題を見出し、どのようにしたら質の高い学びができるかについて見通しをもつ。	様々な情報をもとに、ICT を活用して課題解決のために創意工夫する。	将来、ロボットやAIとともに仕事や生活をすることを、自分の姿とともにとらえることができる。	グループ活動や対話の中に発信を加え、自らの学びを進んで身近な生活の中に生かそうとする。

5 指導と評価の計画

形態	次	時	主な学習活動		評価規準及び 評価方法
			プログラミング学習	選択型プロジェクト学習	
一 斉	一次 ガイダンス とテーマの 決定	1	○ガイダンスを受け、プロジェクト学習としての探究型テーマを考えよう。		【課題設定の力】 身近な生活の中から 課題を見出し、どのよ うにしたら質の高い学 びができるかについ て見通しをもつ。 ※ワークシート
		2	○テーマをもとに4人のチームをつくろう。 ○学習の概要を知る。 ・プロジェクト学習とプログラミング学習をリンクさせて活動する。 ・プログラミングの基礎学習は履修済みで、本年度は応用学習から始 める。		
少 人 数	二次 実践学習	1	○ディスプレイタッチを取得しよう。 ・「はい」「いいえ」のボタンを押して 動作するプログラムの作成	○テーマに沿った探究学習をしよ う。 ・大テーマ 「地域の良さの再発見」	【情報活用の力】 様々な情報をもとに、 ICTを活用して課題解 決のために創意工夫 をする。 ※プログラムデータ ※作成資料
		2	○音を再生しよう ・効果音を流すプログラムの作成		
		3	○テーマに関連したクイズ形式のプ ログラムをつくろう。 ・プログラムの効率化 ・ストーリー性のあるプログラム	沖縄修学旅行での体験を通し た地域理解を、自分たちの地域 につなげよう。	
		4			
	三次 発表会に 向けた準備	1	○プロジェクト学習発表会で行うプレゼンテーションの構想を練ろう。		【社会参画の力】 グループ活動や討論 の中に発信を加え、 自らの学びを進んで 身近な生活の中に生 かそうとする。 【将来展望の力】 将来、ロボットや AI と ともに仕事や生活を することを、自分の姿 と共にとらえることが できる。 ※行動観察・発表
		2	○プレゼンテーションの内容やストーリーがわかるシナリオを考えよう。		
		3	○プレゼンテーションで使えるロボッ ト・プログラムを作成しよう。	○プレゼンテーションで使える資 料やシナリオを作成しよう。	
4		○話し方の練習をしよう。 ○プレゼンテーションのロールプレイングをしよう。			
一 斉	四次 発表会	1	○プロジェクト学習発表会でプレゼンテーションをしよう。 ・思いを伝える大切さと受け止める大切さの習得 ・学びのよさの認知と学びの過程の振り返り		

☆使用 ICT 機器：ロボット→Pepper (Softbank Group)、タブレット PC→iPad (Apple Inc.)

6 研究主題との関連

研究主題 「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して」

明確な目標を持たせゴールまでの道筋をイメージすること、PDCA サイクルでの学習活動を展開すること、将来を予見するような最新の ICT を活用すること、自分たちの思いを的確に伝えるプレゼンテーションを作成することなどを通して、研究主題に迫るような意識が生徒に湧いてくることを期待している。

7-1 本時案(第三次の第3時) ※少人数形態→プログラミング学習グループ(パソコン教室)

(1) 本時の目標

- プロジェクト学習発表会のプレゼンテーションで使用するロボット・プログラムを作成することができる。

【情報活用の力】【社会参画の力】

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
○本時の目標を知る。		
<p>プロジェクト学習発表会では、ICT機器を用いて学びの成果をプレゼンテーションします。本時は、Pepperが登場する場面でのロボット・プログラムを作成します。</p>		
○本時に作成するロボット・プログラムの内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○プレゼンテーションの骨組みを、事前に作成したシナリオ設計図(フローチャート)を用いて確認させる。 ○Pepperが登場する場面のプログラミングを行わせる。 	
<p>○ロボット・プログラムを作成する。</p>  <p>○進捗状況を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム内の役割分担について確認させる。 <div data-bbox="614 929 1145 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング入力担当(1名) ・画像作成担当(1名) ・シナリオ作成担当(1~2名) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○プログラミングツール「Choregraphe」を使用。 ○不具合な箇所や機能の追加箇所などをチームで確認しながらプログラミングを行わせる。 ○Pepperのタブレットに表示する画像はiPadを使って作成させ、専用のコードを使ってプログラムに取り込むようにさせる。 ○Pepperに発話させるせりふは主に担当者が考え、プログラミング入力担当者に伝える。 ○学びの成果が相手に伝わる工夫をさせる。 ○チームごとにプログラムを実行し評価させる。 	<p>【情報活用の力】 様々な情報をもとに、ICTを活用して課題解決のために創意工夫をする。</p> <p>【社会参画の力】 グループ活動や討論の中に発信を加え、自らの学びを進んで身近な生活の中に生かそうとする。</p>
○まとめをする。	○成果発表会に向けて、次時への課題を共有させる。	

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿の例

- ・チームで協働してプレゼンテーションで使えるロボット・プログラムを作成することができる。

7-2 本時案 (第三次の第2時) ※少人数形態→選択型プロジェクト学習グループ(3-3 教室)

(1) 本時の目標

○プロジェクト学習発表会のプレゼンテーションで使用する資料やシナリオを作成することができる。

【情報活用の力】 【社会参画の力】

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
○本時の目標を知る。		
<p>プロジェクト学習発表会では、ICT 機器を用いて学びの成果をプレゼンテーションします。本時は、iPad でのスライド作成やシナリオ作りを行います。</p>		
○本時に作成するスライドやシナリオの内容を知る。	○プレゼンテーションの骨組みを、事前に作成したシナリオ設計図(フローチャート)を用いて確認させる。	
<p>○発表用資料を作成する。</p>  <p>○進捗状況を確認する。</p>	<p>○チーム内での役割分担について確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ担当 ・iPad スライド担当 ・Pepper 担当 ・司会と発表担当 </div> <p>○プレゼンテーションのシナリオを考えさせる。 ・ストーリーの展開パターンをどうするか。 ・インパクトのあるコメントを作るには。 ・iPad と Pepper の使い分けをどうするか。</p> <p>○プレゼンテーションのスライドを作成させる。 ・iPad のアプリ「KeyNote」を使用</p> <p>○伝わるプレゼンテーションの工夫をさせる。 ≪スライド≫ ・文字の大きさや色 ・図、グラフ、写真の効果的な活用 ・機器の操作、アニメーション等 ≪原稿・話し方≫ ・情報の取捨選択(分かりやすさ) ・話の速さ、言葉遣い、態度</p> <p>○チームごとに作成資料を確認させ、評価させる。</p>	<p>【情報活用の力】 様々な情報のもとに、ICT を活用して課題解決のために創意工夫をする。</p> <p>【社会参画の力】 グループ活動や討論の中に発信を加え、自らの学びを進んで身近な生活の中に生かそうとする。</p> <p>作業表</p>
○本時を振りかえる。	○成果発表会に向けて、次時への課題を共有させる。	

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿の例

・チームで協働してプレゼンテーションで使える資料やシナリオを作成することができる。

第3学年4組 国語科 学習指導案

平成30年10月23日(火) 第5校時 3年4組教室 指導者 八木 真澄

1 単元名 「おくのほそ道」の批評文を推敲しよう

～自分の書いた文章を読み返し、文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にする～

2 単元の目標

- 目的や意図に応じ、伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書こうとする。
【国語への関心・意欲・態度】
- 自分の書いた文章を読み返し、文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。
【書くこと】
- 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解して書くことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
目的や意図に応じ、伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書こうとしている。 (第2学年)	自分の書いた文章を読み返し、文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にしている。 (第2学年 エ)	相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解して書いている。 (第2学年 (1) イ (オ))

4 指導と評価の計画 (全2時間)

- 前単元で、『おくのほそ道』を読んだことがない人に、作品の魅力を伝える批評文を書こう～人間や自然について、自分の意見をもつ～を行った。その際に作成した「批評文」を推敲する学習活動を計画する。

時	主な学習活動	評価基準及び評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○推敲の観点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主張がきちんと書かれているか。 ・根拠が主張を伝えるために効果的に機能しているか。 ・読み手に分かりやすく伝わるか。 練習問題を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容が読み手に説得力をもって伝わるように、どのような説明や具体例を加えたらよいか検討する問題。 ○学習用語の確認を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・説明・具体例・疑問・意見など。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じ、構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように書こうとしている。 【関心・意欲・態度】(観察) ○相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解して書いている。 【知識・理解・技能】(ワークシート)
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○推敲の観点を振り返る。 ○自分の批評文を推敲する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主張と根拠に線を引き、推敲したほうが良い部分に付箋を貼り、理由を書く。 ○班のメンバーの批評文を読み合い、推敲する。 <ul style="list-style-type: none"> ・回し読みし、推敲したほうが良い部分に付箋を貼り、理由を書く。 ○班で交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の推敲したほうが良い部分についての説明を行う。 ・班のメンバーに助言をもらう。 ○学習のまとめと振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の書いた文章を読み返し、文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にしている。 【書く能力】(批評文)

5 指導上の立場

○単元設定の理由

平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果より、「国語A」4「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することができるかどうかをみる」問題において、本校第3学年の正答率は全国平均よりも12.0ポイント低く、50.8%であった。そして、「国語A」「国語B」どちらも領域別に正答率をみると、「書くこと」の領域の正答率が低いことが示されていた。以上の点を踏まえると、「書くこと」に関する領域、中でも特に推敲に課題がみられることが分かる。このことから推敲を行う単元を設定した。

○単元観

本単元は、自分が書いた「おくのほそ道」の批評文を推敲する活動を通して、「文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にする力」を身に付けさせる単元である。

関連する単元としては、二学期に、自分が書いた「弁論文」の推敲をする単元を設定した。その際、表記や語句の用法を確かめて改善することはできていたが、伝えたい内容が十分に表されているかどうかを踏まえて検討することは不十分であった。

本単元では、特に説明や具体例などの文を効果的に書き加えたり、修正を行ったりすることで、その文が自分の考えを明確に伝えるために機能しているかを検討し、読みやすく分かりやすい文章にする力を身に付けさせたい。

○生徒像について

本校の第3学年の生徒は、「書くこと」に課題があり、抵抗を感じている生徒が多い。そのような生徒が、前単元で「おくのほそ道」の作品の魅力を伝えるために批評文を書き上げた。今回の単元で、自分が書いた文章を、より良いものにするための具体的な方法を教え推敲し、より良いものになったと実感させることで、「書くこと」への意欲の向上としたい。

○指導観について

本校の研究主題は「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して」である。主体的な学びと協働学習を中心に授業改善を進めている。

主体的な学びとするため、今回は自分の文章をよりよくするという課題設定の工夫を行った。自分の文章をより良くするために学んだことを生かすことが、主体的な学びを促す手立てとして有効であると考えている。また、今回の学習で使用する、「推敲」「説明と具体例」「意見」「疑問」といった言葉や概念を生徒が理解して学習が進むように、練習問題を通して指導し、推敲の活動を行う。

協働学習については、本単元でも批評文を互いに読み合い、自分の書いた文章に対して意見や助言を行う学習活動を行う。自分の書いた文章に対して意見や助言によって気づき、改めて認識したことを明確にし、自分の表現に役立ててほしい。また、自分で書くことに自信がない生徒が多くみられるので、交流し助言されたことを自分の表現に取り入れることで、「関心・意欲・態度」の向上を図りたい。

6 本時案（第2時）

(1) 本時の目標

- 自分の書いた文章を読み返し、文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。
【書くこと】

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 本時の目標を知る。		
めあて 書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分表されているか検討し推敲しよう。		
2 推敲の観点を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○推敲の観点 <ul style="list-style-type: none"> ・主張に魅力とする観点がきちんと書かれているか。 ・根拠が主張を伝えるために効果的に機能しているか。 ・読み手にわかりやすく伝わるか。 	
3 推敲の観点に基づいて自分の批評文を推敲する。	<ul style="list-style-type: none"> ○主張と根拠に線を引き、推敲したほうが良い部分に付箋を貼り、理由を書かせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>※予想される生徒の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～を伝えるために新たな説明を加える。 ・別の具体例を加える。 ・別の意見を加える。 ・新たな疑問を加える。等 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の書いた文章を読み返し、文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。 <p>【書く能力】 (観察・批評文・付箋)</p>
4 班のメンバーの批評文を読み合い、推敲する。	<ul style="list-style-type: none"> ○回し読みし、推敲したほうが良い部分に付箋を貼り、理由を書かせる。 	
5 班で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の推敲したほうが良い部分についての説明を行わせる。 ○班のメンバーに助言を行わせる。 	
6 全体で交流し、まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の推敲したほうが良い部分や班のメンバーからの助言を発表する。 ○予想される生徒の記述のような意見が出ない場合は補足してまとめる。 	
7 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の批評文をより良いものにするために、交流を通じて気付いたことや改めて認識したことを振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の書いた文章を読み返し、文の使い方に注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。 <p>【書く能力】 (ワークシート)</p>

◎「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する生徒の姿の例

- 自分の主張を分かりやすく伝えるために、根拠を引用したり、具体例や説明などを補足したりしている。

◎「十分満足できる」状況 (A) と判断する生徒の姿の例

- 自分の主張を分かりやすく伝えるために、効果的に複数の根拠を引用したり、具体例や説明などを補足したりしている。

「ぼくのぼく道」の批評文を推敲しよう②

() 組 () 番 氏名 ()

目標 書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分表れているか検討し推敲しよう。

① 推敲の観点を確認しよう。

- ・主張に魅力のある観点がまたたくまに書かれているか。
- ・根拠（作品の中の表紙を引用し、その効果を知っている。自分や社会の在り方と比較している。）が主張を伝えるために効果的に機能しているか。
- ・読み手に分かるように書かれているか。

② 推敲の観点に基づいて推敲しよう。

- 1 自分の主張（赤）と根拠（青）に線を引く。
- 2 推敲した部分で取っ替える部分に線を引く、空白を削ぐ。
- 3 友達の記事の推敲した部分で取っ替える部分に線を引く、空白を削ぐ。（線を引く部分も削ぐ。）

③ 推敲箇所について話し合いしよう。

- 1 自分の推敲した部分で取っ替える部分について話し合う。
- 2 友達の記事の推敲箇所について話し合う。

④ 全体で話し合いしよう。

⑤ 自分の批評文をもう一度読んでみるために改善するポイントを書き出す。（振り返り）

第5回校内研修

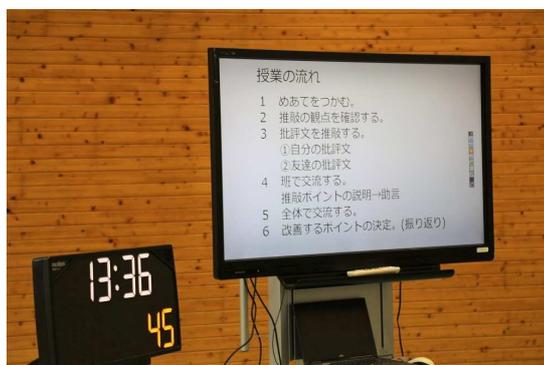
平成30年10月23日（火）体育館特設教室

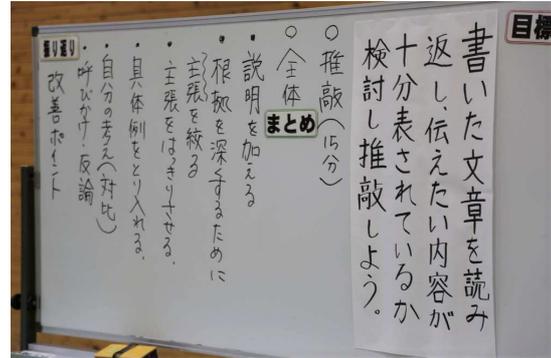
平成30年度 岡山県授業改善研修会

「おくのほそ道」の批評文を推敲しよう

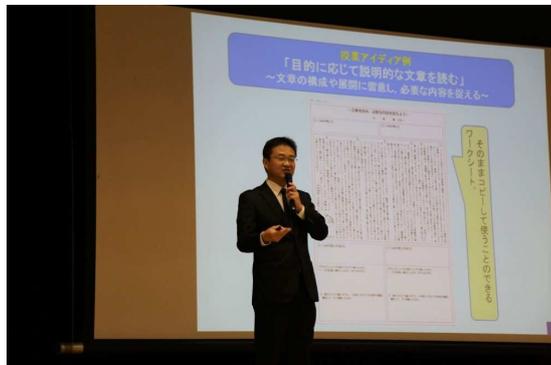
授業者 八木真澄

授業の様子





研究協議の様子



岡山県教育委員会学校訪問懇談会

平成30年11月27日

15:00~16:00

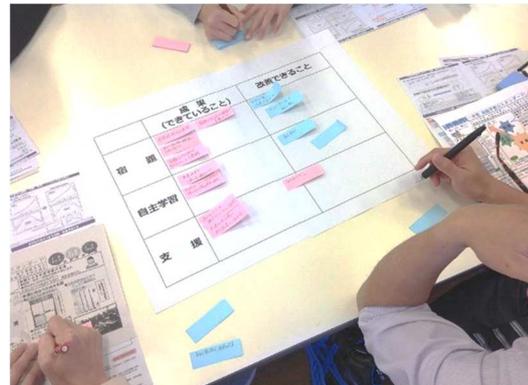
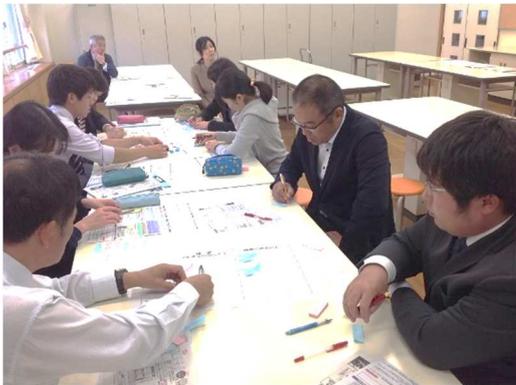
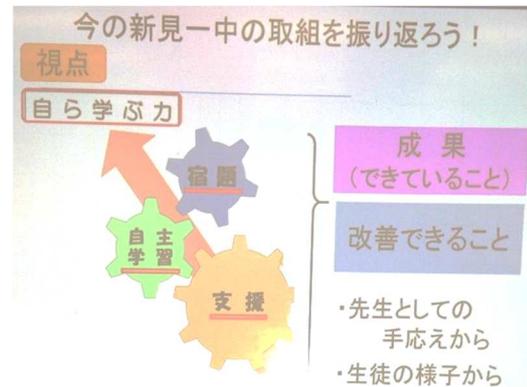
於 被服室

指導助言者 岡山県総合教育センター 指導主事 伊藤昌訓

テーマ 家庭学習の充実を目指して ～新見第一中学校での取組より～

懇談の様子

本校教員が作成した、一中型家庭学習のスタンダード*次ページ参照の説明をもとにして、「宿題」「自主学习」「支援」の3つを歯車にたとえ、相互に補完し合うことで、自ら学ぶ力の育成をめざす取り組みを協議した。



一中型 家庭学習のスタンダード

小・中学校・家庭が連携し、相互理解のもと
家庭学習時間の確保と充実を目指した取り組み

1年
80分

2年
90分

3年
100分

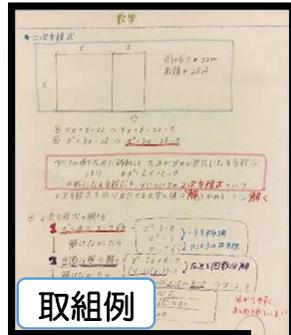
一 中 家 庭 学 習 時 間

進んで学習し 深く考える
新見第一中学生



自ら学ぶ力

まなびノートの取組み (H28年度~)



- 毎日1ページ以上自主学習に取り組む。
- 学習に向かう努力を評価する。教員からのフィードバックによる意欲の向上。



- 帰りの会で計画を立て、学習に取り組む。その日の振り返りをし、◎・○・△で自己評価する。

ポイント

R-PDCAサイクルで家庭学習を自分自身の力で構築していく。



宿題による学習習慣の定着

- 国語・数学・英語の宿題を毎日出す。
- 提出物の点検を毎日行い、生徒の日々の頑張りを認め、意欲を高める。



学習に向かうための支援

- 取組みの好事例を紹介
- 生徒会主体のクラスマッチで意欲向上



← 友達の学び方を学ぶ

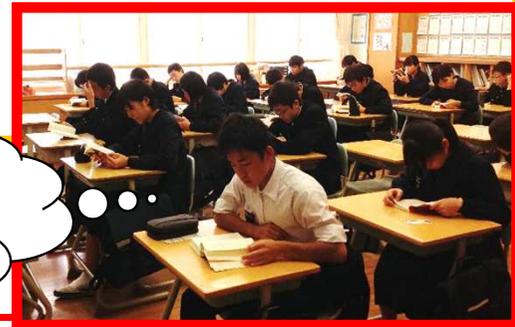


← 集団で学ぶ雰囲気
を高めたい

- 家庭学習の時間確保と定着のため、学校の取組みの理解と協力を家庭に求める。

ポイント

眠っている頭を勉強モードに切り替え！
落ち着いた気持ちで学びに向かおう。



読書活動の充実→落ち着いた学習環境づくり・豊かな情操の獲得
登校後、20分間の朝読書を実施。教員も同じく読書活動に取り組む。

「まなびノート」の実施について

1 実施理由

- ・昨年度より実施している「まなびノート」(自主学習)を、今年度も継続して行う。
- ・学区内の全小学校でも家庭学習(宿題)として行っており、継続した取組とすることを学力向上担当者会で確認している。
- ・H29年度学習状況調査において、家庭学習に1時間以上取り組む生徒の割合が全国平均、岡山県平均を大幅に下回っている。(本校49.3%、岡山県59.2%、全国69.6%)また、学校評価においても生徒、保護者、教員の全てで「家庭学習」の項目が低く、学習習慣の確立が本校の課題である。
- ・学校評価において、「まなびノート」の内容を高める工夫が求められている。

2 取り組みの方向性

- ・1ページ以上で毎日提出。
- ・1人で取り組めない生徒は学校でさせる等の、学習習慣を身に付けさせるための支援を、発達段階に応じて行う。

3 指導計画

(1) 形態

- ノート 学期に1冊ずつ配布。(各学年でノートを生徒集金で購入)
「まなびノート」として、テスト直しやまなびタイムにも使用。
- 内容 その日の授業のまとめや、わからなかったこと、もっと学びたいこと、予習など、**授業とできるだけ関係付け、内容の大枠を教科担当者で示す。(別紙参照)**
詳細な学習内容は自分の実態に応じて計画を立てて行う。
- 取り組み方
 - ①帰りの会で内容を決め、計画表に記入。
 - ・全校統一の「計画・振り返りシート」をノートの表紙裏に貼る。
 - ②まなびのノートで学習し、振り返りを記入。
 - ③朝の会で回収し、生活係が名簿チェック後、担任がチェックし、当日返却をする。
 - ・原則学年団で行うが、出張等で手薄な場合は業務アシスタントにお願いすることもできる。
 - ・専用のカゴを用意し、職員室には持って下りない。

(2) 導入に向けて

- オリエンテーション
 - ・学習する価値、宿題をする意味、家庭学習の集中力を高める方法など。
 - ・計画の立て方、自分に合った学習内容、良いノートの手本の紹介など。
 - ・4月16日(月)からスタート。
- 日常の指導・支援
 - ・「まなびノート」があることをふまえて、宿題の出し方を考慮。
 - ・各担任、教科担任、学年団で声掛けや、手本ノートの掲示、通信による取組の紹介、クラスマッチ、ノートコンテストなどで、生徒が継続できるように支援。

まなびノート 例

6月4日(月) 国語 俳句

授業のまとめ

・俳句 … 韻文 (↑ ↓ 散文)

季語を用い、五・七・五の定型で表す。
有季定型

・歳時記 … 季節の言葉をまとめた本

・切れ字 … 俳句の中で句の切れ目に使う言葉

○どの子にも涼しく風の吹く日かな 飯田竜太

・季語 … 涼し (夏) 切れ字 … かな

わからなかったこと

・韻文 … 短歌や俳句など、一定の形式や音のリズムをもった文章
と、教科書に書いてあったが、短歌や俳句以外にも何かあるの

だろうか？ 散文って何？ ※1

予習 ※2

○いくたびも雪の深さを尋ねけり 正岡子規

・季語 … 雪 (冬) 切れ字 … かな

○わけ入ってもわけ入っても青い山 種田山頭火

・自由律俳句 … 自由な音律の俳句

・無季俳句 … 季語のない俳句

次の時間にわかるようになりたいこと

なぜ、正岡子規は「いくたびも雪の深さ」を尋ねたのだろうか？
作者のことについてももう少し詳しく知りたい。 ※3

家庭学習のポイント

国語	宿題	○漢字書き取り 100 字（毎日提出）
	まなびノート	○復習・まとめ ・授業で習ったことを整理しまとめるだけでなく、 わからなかったことや難しかったこと、次の時間にわかるようになりたいことなど、自分の学びを整理する。 ※1・※3 ○予習 ・授業で習った 知識を活用して 予習する。※2 ○調べ学習 ・好きな言葉（詩・歌詞含む）調べなど。
社会	宿題	○毎日、新聞やテレビ・インターネットなどでニュースを見る。 ○次回の授業内容 2 ページ分を読んでおく。（予習）
	まなびノート	○復習・まとめ ・授業で習ったことを整理しまとめる時に、 地図や年表・図表などを活用する。 ○調べ学習 ・授業で疑問に思ったことや興味を持ったこと、また、新聞やニュースなどで興味を持った地理・歴史や政治・経済的な事柄について、調べたり、まとめたりする。
数学	宿題	○計算練習 10 分以上（毎日提出）
	まなびノート	○復習・まとめ ①「問」「練習問題」の問題を解く。 ②授業で解いた「例」「例題」の問題を、自分の言葉でまとめる。 ③まとめてみて、あらためて疑問に思ったことを書く。 ○予習 ①次時の学習活動につながる問題を解く。 （既習とのずれを感じるような問題。「できる、できる、あれできない」） ②次の時間、できない部分を確認した状態で授業を始める。
理科	宿題	○ワーク・理科ノート・プリント・レポート
	まなびノート	○復習・まとめ ・授業で習ったことを整理しまとめるだけでなく、 わからなかったことや難しかったこと、次の時間にわかるようになりたいことなど、自分の学びを整理する。 ○調べ学習 ・授業で疑問に思ったことや興味を持ったこと、また、新聞やニュースなどで興味を持った科学的な事柄について、調べたり、まとめたりする。
英語	宿題	○毎日ノート（毎日提出）＊英単語や文を練習する ※まなびノートと同じような内容を行っても良い。
	まなびノート	○復習・まとめ ・授業で習った単語・文の練習や新しく習った文法を整理する。 ・授業でわからなかった所や読めなかった単語を整理する。 ・教科書の文を使ってオリジナルの文を作ってみる。 ・教科書の後ろのページにある基本表現を復習する。 ○調べ学習 ・英和・和英辞書を活用して、テーマごとの英単語や語句を調べる。 例）教科で使う英語・朝起きてから夜寝るまでの行動を表す英語など。

新見市教育委員会 初任者指導訪問授業研修会

平成 30 年 1 2 月 1 7 日 (月)

公開授業 1	教科	社会科
	授業者	教諭 有西 陽路
	学年	2 年生

公開授業 2	教科	保健体育
	授業者	教諭 前原 史哉
	学年	3 年生

第2学年1組 社会科（歴史的分野） 学習指導案

平成30年12月17日（月）第2校時 2年4組教室 指導者 有西 陽路

1 単元名 第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化 第2節 近世から近代へ

2 単元の目標

○近代社会の成立や、日本の開国に対する関心を高め、近代の特色を意欲的に追究し、国際協調の大切さをとらえることができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

○日本の開国における大きな変化について課題を見いだし、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その結果を適切に表現できる。

【社会的な思考・判断・表現】

○日本の開国やその影響に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に読み取り、図表にまとめることができる。

【資料活用の技能】

○近代社会の成立や、欧米諸国のアジアへの進出、日本の開国について理解し、その知識を身につけている。

【社会的事象についての知識・理解】

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出、日本の開国とその影響、近代化の過程における人々の生活の大きな変化などに対する関心を高め、意欲的に追究して近代の特色をとらえようとし、国際協調の大切さを考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出、日本の開国とその影響、近代化の過程における人々の生活の大きな変化などについて課題を見いだし、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出、日本の開国とその影響、近代化の過程における人々の生活の大きな変化などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に読み取ったり図表にまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代社会を成立させた欧米諸国がアジアへ進出したこと、日本の開国とその影響について理解し、その知識を身につけている。 ・ 近代化の過程で人々の生活に大きな変化が生じたことを理解し、その知識を身につけている。

4 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点				評価規準および評価方法
			関	思	技	知	
一	1	ゆらぐ幕府の支配		◎		○	<ul style="list-style-type: none"> 歴史図表などの資料をもとに、幕府政治のゆきつまりと薩摩・長州藩などの幕藩改革の成功の様子をとらえ、新たな勢力の台頭について説明している。 (ワークシート・ノート) 欧米諸国が日本に多く接近する中で、一部の蘭学者に対する幕府の強硬な姿勢や天保の改革・諸般の改革のあったことをとらえている。 (発表・ノート)
	2	開国	◎	○			<ul style="list-style-type: none"> 日本の経済が混乱した理由について主体的に自分の意見を述べ、生徒同士で話し合うことができている。 (観察・発表) 日本を取り巻く海外情勢を背景にした幕府の対応や開国後の政治や経済の変化について説明できている。 (観察・ノート)
	3	江戸幕府の滅亡			◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 倒幕をめざした諸藩の動きとそれに対する幕府の決断など、幕末の日本の様子を様々な資料から読み取っている。 (観察・ワークシート) 倒幕などの過程を、幕府側と倒幕側それぞれの立場からとらえ、江戸幕府滅亡によって武家政権が終わりを迎えたことを理解している。 (発表・ノート)

5 指導上の立場

○単元観

本単元のねらいは開国の影響により人々の生活が大きく変化したことを理解することである。また、幕府が開国した理由について主体的に自分の意見を述べ、生徒同士で話し合うことや、開国後の幕府の対応や開国後の政治や経済の変化について説明するといった社会的な思考・判断・表現の活動も取り入れる。さらに、日本が開国した後に開港した場所や欧米諸国のアジアでの勢力の拡大を日本地図や世界地図を用いて確認する資料活用の技能の活動も取り入れていく。

○生徒観

本学級は、男子15名、女子16名の計31人で構成されている。社会の授業においては、ほとんどの生徒が意欲的に学習し、積極的に発言や発表を行うことができる。また、協働学習にも意欲的に取り組むことができる。一方で話し合った内容を生かして自分の意見をまとめることが苦手な生徒が多いので、生徒がまとめた意見を紹介するなどして自信をつけさせていきたい。歴史的分野は学習する内容が多く、暗記に生徒の意識が向かいやすい。よって、社会的な思考力や資料活用の技能を高める活動を通して多様な力を身に付けることができるようにする。

○指導観

本学級の生徒の実態を受けて授業の中に協働学習を取り入れている。そのことにより、他者の考えを参考にしたり、答えを導き出す過程を話し合ったりする中で、自分の考えに根拠をもって説明することが難しい生徒にとっても思考の一助となると考えられる。また、協働学習に入る前に個人で思考する時間を設けることで自分の意見や考えを明確にして話し合いに臨ませるようにする。自分の意見をもって話し合いに参加することで、人前で意見を言うことに対する自信をつけさせたい。支援の必要な生徒に対しては個人で思考する時間に助言を行い、すべての生徒が自分の意見をもって話し合いに参加できるようにする。

○研究主題との関連

研究主題は『主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して』である。生徒が主体的に学ぶためには見通しをもって学習に取り組めることが重要である。そのため、板書を工夫し本時の学びの道筋が見えるように工夫したい。また、協働学習を取り入れることで、「主体的な学び」や「対話的な学び」、「深い学び」が生まれるようにしたい。グループ活動の意義を生徒に理解させ、グループの中で対話や議論が生まれるように資料提示の仕方を工夫することで、生徒の思考がアクティブになるようにしていきたい。

6 本時案（第一次第2時）

(1) 本時の目標

○ 日本を取り巻く海外情勢を背景にした幕府の対応や開国後の政治や経済の変化について説明できる。
(社会的な思考・判断・表現)

○ 日本の経済が混乱した理由について根拠をもとに自分の意見を述べ、生徒同士で話し合うことができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)

(2) 展開

学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 支 援	学 習 評 価
1. 前時までの学習内容を確認する。	○日本に多数の外国船が接近してきたことを確認する。	
2. 本時の目標をつかむ。	<p>めあて 開国後の日本の社会を調べ、開国後に日本の経済が混乱した理由を説明する。</p>	
3. ペリー来航から日米修好通商条約までの流れを調べる。	<p>○日米和親条約と日米修好通商条約の違いを調べるためのワークシートを配布する。 ○個人で違いを調べ、調べた内容を二人組で確認し、全体で発表させる。 ○調べられていない生徒は机間指導で条約の内容が書いてある教科書の場所を指示する。 ○早く調べられた生徒にはワークシートの日本地図に開港した場所を書き込むように指示する。</p>	
4. 開国後の政治や経済の変化を調べる。	<p>○日米修好通商条約を結んだ後、貿易が始まったことを確認する。 ○開国後の変化を、幕府・商人・町人・綿製品の生産者・生糸の生産者の5つの立場から考えさせる。 ○資料からも考えさせるために教科書 p161 の⑤～⑦を説明する。 ○開国によって損をした人もいれば、得をした人もいることにも注目するよう助言する。 ○開国したことによる影響を個人で考えさせ班内で発表させた後、全体で発表させる。</p>	<p>○（思考・判断・表現） 開国後の政治や経済の変化について5つの立場から説明できている。 〈ワークシート〉</p>
5. なぜ、開国後に日本の経済が混乱したか考える。	<p>○開国後の政治や経済を調べた中で、日本の経済を混乱させたものを班で1つ選び、発表させる。 ○班員全員が根拠をもとに意見を述べるように指示する。 ○選んだ理由についても、発表させる。</p>	<p>○（関心・意欲・態度） 経済が混乱した理由に対して根拠をもとに自分の意見を述べ、話し合うことができている。 〈観察・発表〉</p>
5. 本時のまとめを行う。	<p>まとめ 日本の経済は開国後に、金貨の流出や、生糸や茶の輸出量の増加による品不足と物価の上昇、関税自主権がないことによる安価な綿製品の大量の輸入によって混乱した。</p>	
6. 本時の振り返りを行う。	<p>○本時の学習で分かったこと、疑問に思ったこと、調べてみたいことをノートに書くよう指示する。 ○疑問に思ったことや調べてみたいことを「まなびノート」につなげるように助言する。</p>	

◎ 「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

開国による日本経済の混乱について、複数の視点からその要因をまとめ、自分の言葉で記述している。

新見第一中学校初任者指導訪問 授業「振り返り」平成30年12月17日(月)

(1) 授業者(有西教諭)より

- 内容が多かったが、「振り返り」の時間まで確保することができた。
- 開国後の変化を調べるところで様々な意見が出てよかった。
- 協働学習の役割を説明するための掲示物をあらかじめ作っておくことで、テンポよく班活動の時間に入ることができた。
- 前半の2つの条約を調べるところで時間短縮ができた。それによって、協働学習班や開国後の変化について考える時間を十分に確保することができた。
- 開国後の変化を発表させる時に、商人・綿織物の生産者・生糸の生産者について対照的な意見を取り上げることができた。
- 生徒の言葉を使って「まとめ」をすることができた。
- 「説明できる」という目標で、生徒が説明できる授業展開にできてよかった。

(2) 新見市教育委員会 学校教育課 田邊参事より

- 教師が説明する時に子どもが下を向いていることがあった。
- 教師が黒板の方を向きながら説明する場面があった。
- 意欲付けになるような目標の出し方をして、子どもに目標をつかませる工夫があると良い。
- 取り組めていない生徒への手立てを工夫する。
- デジタル教科書を効果的に活用できていた。
- 話し合い活動の前に役割を指定し、話し合うポイントを示していた。生徒たちは良い話し合い活動ができていた。
- 「なぜそうなのかな？」など机間指導の声かけも良かった。
- ワークシートなどに教師が○をつけるとその他の意見が出にくくなるので、○をつけるときには気を付ける。
- ホワイトボードを使って、生徒の答えを分類して、まとめへつなげられていた。
- 「振り返り」で書いていることをノート提出の時だけでなく、机間指導でもチェックして自分の授業の振り返りにすると良い。

(3) 初任者指導担当より

- 協働班形態で解決を図るにふさわしい課題が設定されている。
(今までの授業のなかでジャンプ課題を投げかける場面も見られた。)
- 協働班での話し合いの結論を記入した「ホワイトボード」は時間効率の面からも効果的。
- 教師が各班(生徒)の考えを生かして「まとめ」をされていて素晴らしい。
- 「ホワイトボード」は類型化しやすく、学習ツールとして効果的な活用工夫が見られた。
- 「振り返り」までの時間確保が十分であった。
- 協働班の役割分担も掲示物で視覚的に提示され、わかりやすかった。
- 協働班形態になる時、欠席者等による人数調整は必要。2人組があった。3人は確保。
- 「考え」にいたる理由・根拠を明確にして話し合いができていた。
- 机間指導で「記録」役の生徒のシートをチェックし、授業促進になる班を、次の学習活動で適宜、生かしていた。

1 単元名 器械運動 マット運動

2 単元の目標

- (1) 器械運動に自主的に取り組むとともに、良い演技を讃えようとする事、自己の責任を果たそうとすることができる。 【運動への関心・意欲・態度】
- (2) 器械運動の特性に応じて、演技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、またそれらを構成し演技することができる。 【運動の技能】
- (3) 自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。 【運動についての思考・判断】
- (4) 運動観察の方法を身に付け、健康や安全に留意して活動することができる。 【運動についての知識・理解】

3 単元の評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器械運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・ 良い演技を讃えようとしている。 ・ 自己の責任を果たそうとしている。 ・ 互いに助け合い、学び合おうとしている。 ・ 健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ・ 自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。 ・ 自己の技能・体力の程度に応じて、目指す技や技の組み合わせ方を見付けている。 ・ 仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マット運動では、回転系や巧技系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、発展技のいづれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・ 器械運動に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ・ 運動観察の方法について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ① 技ができる楽しさや喜びを味わい、その技をよりよくできるようにすることに積極的に取り組もうとする。 ② 練習を行う際に、道具の準備や片付けを積極的に行っている。 ③ グループで練習している仲間の努力や良い演技を認め、気付いたことを積極的にアドバイスしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ② 自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ③ 仲間からのアドバイスを聞いたり映像を見たりして、取り組む技のポイントについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで技をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① マット運動の特性や成り立ちについて言ったり、書き出したりしている。 ② 学習した技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。

4 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準				評価方法
			関	思	技	知	
一	1	(オリエンテーション) ○ マット運動の特性、単元の目標や学習の進め方について理解する。グループ編成をする。 ○ 事故防止と安全な学習についてのルールを確認し、器具の扱い方を知る。 ○ 基本動作（準備運動）を練習する。 ゆりかご、転がり立ち、後転。	②			①	ワークシート
二	1	(基本的な動きの確認と基本技の習得) ○ 基本的な技の名称や行い方を知る。 ① 後転、開脚後転、伸膝後転 手の着き方と腰の高さ、回転力、下肢を開くタイミング。着手とマットを支持するタイミング、起き上がり方。					ワークシート 観察
	2	② 前転、開脚前転、補助倒立 下肢の振り上げ、開くタイミング。腕支持と視線、下肢の振り上げ方、補助の工夫。	① ②	① ②		②	
	3	③ 側方倒立回転、(ロンダート)、既習技の練習、つなぎ技の紹介 腕支持と着手の仕方、下肢の振り上げ方、下肢の引きつけ。					
三	1	(課題解決に向けた練習) ○ 自己の課題に応じた課題別練習をする。 ① 前時までに習得した技の練習又は発展技の練習をする。		② ③	①		ワークシート 観察
	(本時) 2	(課題解決に向けた練習) ○ 発表会に向けて連続技の練習をする。 ② 発表会に向け、さらに練習する。 ひとつの技の終了が明確で、さらに次の技につながる動き方を工夫する。出来栄えについて伝えたり、効果的な援助を行ったりする。組み合わせた技のつなぎを工夫して練習する。	③	③			ワークシート 観察
	3	○ 発表会に向けて連続技の練習をする。 ③ 発表会の行い方を理解し、さらに練習する。 ひとつの技の終了が明確で、さらに次の技につながる動き方を工夫する。出来栄えについて伝えたり、効果的な援助を行ったりする。組み合わせた技のつなぎを工夫して練習する。		② ③	①		ワークシート 観察
四	1	(学習のまとめ) ① 発表会を行う。	③				ワークシート 観察

5 指導上の立場

○単元観

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、個人によって「できる、できない」の差がはっきり出やすい分野である。しかし、できないことで学習意欲のわきにくい生徒にとっても、運動の取り組み方を工夫することで、段階的に技を習得することができる運動である。そして、今できる技も練習を重ねる中で動きがよりよくなっていく喜びを感じたり、新しい技に挑戦し、動きができるまで何度も練習したりすることで、できたときの達成感と喜びを感じることでできる運動である。

○生徒観

3組14名・4組15名、内特別支援生徒1名 計29名。

アンケートの結果より、マット運動が嫌いと答えた生徒は6名いる。どちらかといえば嫌いと答えた生徒を含めると14名になる。生徒が現在できる技としては、前転や後転、開脚前転、開脚後転が多くあがっている。側方倒立回転跳び 1/4 ひねりや前方倒立回転跳びなど難易度の高い回転系の発展技に挑戦したいという意欲を持っている生徒もいる。

また、「仲間と協力して技ができるようになると楽しさや喜びを感じますか？」という項目に対して、感じると答えた生徒は15名、どちらかといえば感じると答えた生徒を含めると25名になる。

本校では、これまで授業で、タブレット端末を活用して運動技能のポイントを確認したり、協働学習で互いにアドバイスしたりという活動を行ってきた。そのため、本単元でも、仲間と協力して技を習得する場面を多く設け、マット運動が苦手と答える生徒も仲間とともに意欲的に取り組めるようにしたい。

さらに「体力テスト」の結果では、3年女子は「瞬発力」が優れている。器械運動に関連して筋力や柔軟性も高めていきたい。

○指導観

学習形態は各マットでのグループ活動を基本として進める。苦手な生徒に対して積極的に支援を行い、また ICT 機器を利用して、グループの仲間でお互いにアドバイスをし合い、生徒同士で学び合うことができるようなコミュニケーション活動を取り入れる。授業のまとめでは、技能の高さだけでなく、アドバイスの工夫や、準備・片付けの意欲について生徒に評価させるなど助け合いや学び合いの場を設定していく。

○研究主題との関連

本校では『主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して』という研究主題を掲げている。各マットに分かれた少人数グループでの活動や ICT 機器を利用して個人の演技を全体にフィードバックする活動を行うことで、安心してわからないところやできないところを友達に『聞く・訊く』ことができる学習環境を整え、仲間との学び合いができるようにする。

6 本時案 (第三次 2 時)

(1) 本時の目標

- ・グループ練習で、気付いたことを積極的にアドバイスしようとする事ができる。【運動への関心・意欲・態度】
- ・仲間からアドバイスを聞き、取り組む技のポイントについて考える事ができる。【運動についての思考・判断】

(2) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援	評価方法及び評価規準
10分	1 準備運動・出欠の確認をする。 (生徒の号令で整列・ランニング・体操・補強運動・柔軟・出欠の確認まで行う。)	・怪我をしないように丁寧に行わせる。	<p>○ (関心・意欲・態度) グループ練習で、気付いたことを積極的にアドバイスしようとする事ができる。 〈観察〉</p> <p>○ (思考・判断) 仲間からアドバイスを聞き、取り組む技のポイントについて考える事ができる。 〈ワークシート・観察〉</p> <p>● 「努力を要する」状況 (C) を判断する生徒への支援 演技を見る観点を伝え、教師と一緒に観察しアドバイスできるようにさせる。</p>
	2 整列・挨拶する。	・服装と列を整えさせ、元気よく挨拶させる。	
	3 本時のめあてを知る。	めあて：仲間に向けてスーパーアドバイザーになろう。	
30分	4 グループ練習をする。	<p>・発表会のチェックポイントを確認させる。</p> <p>①技の構成・得点・完成度。 ②足・指先まで伸びているか。 ③着地姿勢が止まっているか。技と技のメリハリがあるか。 ④肘や膝関節が意識できている。</p> <p>・前半10分は、練習をする。 ・後半20分は、演技を撮影・分析し、さらに練習する。 ・安全に対する配慮を行う(補助の仕方、撮影場所、マット以外での練習禁止等)。 ・失敗を笑わないようにさせる。 ・グループで補助や声を掛け合いながら活動している生徒を称賛し、協力の意識を高める。</p>	
10分	5 片付けをする。	・安全に素早く片付けさせる。	
	6 本時の振り返り・まとめ・次時の確認をする。	<p>・ワークシートに振り返りをさせる。 ・本時のまとめをする。</p> <p>まとめ：発表会に向けて、仲間と共に演技を上げることができた。</p> <p>・次時の内容を確認する。</p>	
	7 挨拶・解散をする。	・服装と整えさせ、元気よく挨拶させる。	

◎「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する生徒の姿の例

- ・グループ練習で、気付いたことをアドバイスしている。【運動への関心・意欲・態度】
- ・仲間からのアドバイスを聞く事ができる。【運動についての思考・判断】

新見第一中学校初任者指導訪問 授業「振り返り」平成30年12月17日(月)

(1) 授業者(前原教諭)より

- 「本時の目標」と「めあて」と「まとめ」の一貫性はあったが、「まとめ」につながる発問や場作りが不十分だった。
- 活動量の時間確保を意識し、生徒の学習活動に入るまでの説明は端的にできた。
- グループ活動では、各グループに足を運び、示範をしながらアドバイスをしたり、学び合いが活発になる声掛けをしたりするなど生徒の活動を支援することができた。
- グループ形態で取り組む学習活動を①②として、内容を分けていたが、メリハリ・リズムのある展開になっていなかった。タイムマネジメントとして①の活動10分、②の活動20分としたが、①②が一括りの活動として30分間が流れた気がする。途中、生徒を集めどういった課題分析がグループの話合いで出たかなど学習活動にそって、問いかけるなどすればメリハリのある学習展開になったかもしれない。

(2) 新見市教育委員会 学校教育課 田邊参事より

- 「振り返りシート」に本時の目標を書く欄を設ける。記録を残すことは大切。
- グループ練習②の課題分析の学習場面で、生徒が相互アドバイスをする時、観念のポイントがわかりづらい。また「めあて」の「スーパー」について、何をもち「スーパー」といえるのか、アドバイスの数か質かとか、生徒にもっとかみ砕いた表現で提示する、伝える必要がある。
- 本時のめあてを「始め—なか—終わり」で掴ませる。
- 生徒が笑っている雰囲気から演技は怪我につながる可能性がある。
- 生徒指導は、生徒のために行うものであり、自分の感情でするものではない。
- 指導の基準をブラさない。
- タイムマネジメント、安全面に配慮したカゴの位置、生徒の運動量、教師の指示の仕方や言葉数など適切。
- 生徒との関係性は好印象だった。

(3) 初任者指導担当より

- 「めあて」を導入で生徒にしっかり掴ませる工夫が必要。「めあて」をどのような表現にして生徒に示すか、本時「何をするのか」生徒の腑に落ちる表現で提示する。
- グループへの机間指導で、「合理的な動き方のポイント」をすぐ教師が指摘するのではなく、「今の動き、どう思う？」と課題になるところはどこか、生徒に問いかけている姿がよかった。

第6回校内研修開催要項

平成31年2月27日（水）

15:50～16:40

於 被服室

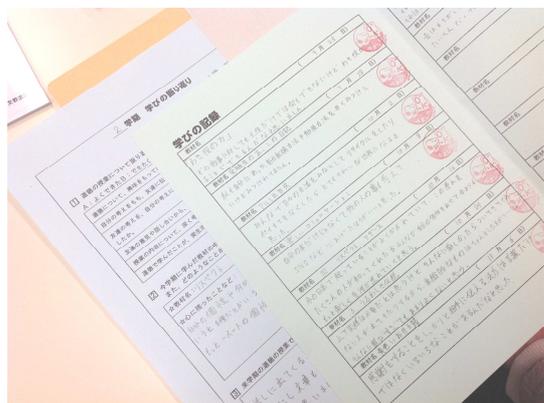
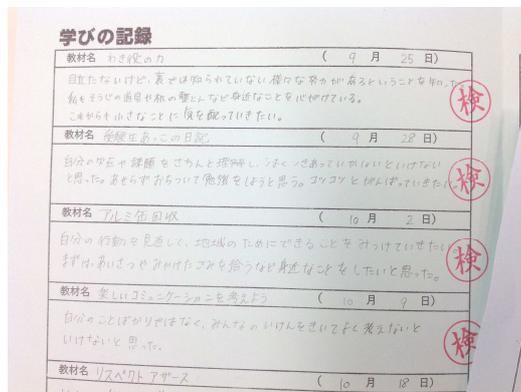
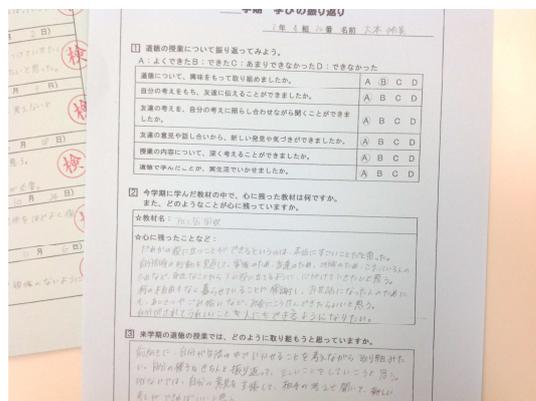
- 1 開会
- 2 説明・演習「道徳科における評価」
- 3 協議「評価資料の検討」
- 4 ふり返り
- 5 閉会

第6回 校内研修のまとめ

テーマ 道徳科における評価

協議内容

道徳ワークシート、振り返りシート等の授業記録を持ち寄り、実際に個々の生徒について評価がきちんとできるかどうかの検証作業を行った。この作業後、道徳担当で既存のシート等を一部改良するなどして、次年度からの本格実施に臨む予定である。



次の指導要録の記述は、道徳科の評価の趣旨に照らして考えると不十分な点があります。

正直、誠実を扱った授業では、登場人物に自分を重ね合わせ考えを深めた。相互理解、寛容や個性の伸長を扱った授業では、友達との語り合いをもとに新たな気づきを道徳ノートに記述できた。

(理由)

個々の内容項目ごとに評価しない。

「一定のまとまり」を意識すると・・・

自分の中の弱さをどう乗り越えたらよいか、一年間の授業を通して考えを深め、自分と向き合うことが大切であると考えようになった。

「一定のまとまり」を意識すると・・・

道徳討論での友達の意見をもとにして道徳的な問題に対する新たな発見や課題に気づき、自分の経験と重ね合わせて深まった考えを道徳ノートに書いていた。

「一定のまとまり」を意識すると・・・

道徳討論での友達の意見をもとにして道徳的な問題に対する新たな発見や課題に気づき、自分の経験と重ね合わせて深まった考えを道徳ノートに書いていた。

なお、一定のまとまりの中で評価した結果として、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について、評価の中で触れるということは考えられます。

(平成28年度小中学校道徳担当指導主事等連絡協議会
事前質問への回答)

登場人物に自分の経験を重ね合わせて考えることで自分の考えを深めるようになり、特に規則の尊重の授業では、新たな気づきや課題を道徳ノートにしっかり書いていた。

ただし、学校生活で見取ることができた道徳性に係る成長の様子が、道徳科の授業の結果として表れていることが明らかな場合については、

道徳科の評価として評価の欄に記述することも考えられます。

(平成28年度小中学校道徳担当指導主事等連絡協議会
事前質問への回答)

道徳ノートには友達との語り合いを通して深められた信頼や友情についての考えが書かれており、陸上部のリーダーとして自分と異なる意見や立場の友達もまとめようとする積極的な姿につながった。

道徳の時間の話し合いで考えを深め、道徳ノートに書かれた学びが学校生活の中でも十分に生かされており、道徳的判断力が高く、豊かな心情を備え、道徳性が優れている。

- ・道徳の授業を評価することが大原則
- ・学校生活全体で見られる道徳的評価は所見や行動評定で評価する。

(理由)

道徳性の評価は×

道徳性とは・・・人格的特性であり・・・内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

・・・道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し評価することが求められる。

(解説 道徳編 第5章 第2節 1)

SDGs を取り入れた授業実践

日時 12月19日

指導者 谷岡明日美

学年 1年4組 教科 総合的な学習の時間

テーマ 「世界の福祉を海外で働く日本人から学ぼう」

テーマ設定の理由

指導者が JICA 教師海外研修に参加した体験をもとにして、「開発途上国の現状や日本とのつながり、国際理解への協力を深める」ことを狙いとしている。

SDGs との関連

持続可能な開発目標（SDGs）は、2015年9月の国連サミットで採択された。2030年までの世界共通目標になっており、この時の社会の中心となるであろう現中学生たちには、今から、世界を視野に入れた様々な課題を認識する必要がある。先進国も開発途上国も、大人も子どももが、一緒に考えて、今すぐ課題に取り組んでいかなければ解決には至らない。本授業では、生徒に SDGs の理念や具体的な 17 のゴールを紹介し、これから生きていく上で欠かせない、広い視野に立ったものの見方や考え方、そしてコミュニケーション力や実行力などを養うきっかけにしたいと考えている。

授業の様子

生徒の熱心な議論や自分たちの思いを的確に表現する場面がたくさん見られ、生きた国際理解教育となっていた。



校内研修を振り返って

研究主題「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して」のもとに、生徒の主体的な学びを促す授業の工夫と、協働学習を中心に研究と研修を行った。

(1) 教科別研修

年度当初に研修チームを編成し、公開授業に向けて授業デザインの検討、指導案作成、授業参観、研究協議を行った。研修は、「関わり合い」ながら共に学ぶことを目的とし、ベテランや若手、教科を超えたメンバーなど、意図的に編成されたメンバーで行った。特に初任者、2年目教員など、経験年数別研修受講者が公開授業を行うことで、若手の指導力の向上を図った。

今年度全国学力・学習状況調査や県の学力・学習状況調査の結果、本校は「書くこと」の領域に学力課題が見られた。本年度行った国語授業改善研修会では、課題の解決を目指した公開授業を行い、学力課題を全教員で共有することができた。授業後は文部科学省 国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官 黒田諭氏に本校での取り組み（主体的な学びを促す授業の工夫・協働学習）について指導・助言をいただき、全国学力・学習状況調査の結果に見られた課題を、授業でどのように扱えば良いのかについて見識を深めることができた。

(2) 生徒間の人間関係づくり研修

若手からベテランまで、すべての教員が、共通認識をもって学級経営や生徒指導に当たることができるように、学校力向上サポートキャラバンを活用して2回研修を行った。

「児童生徒間の人間関係づくり」の研修では、生徒指導とは生徒の「自己指導能力」を育成することであること、「教師と生徒の信頼関係づくり」の研修では、コミュニケーションの在り方や聴く効果、ほめる・指導することについて、すべての教職員で共通認識をもつことができた。

研修後、若手教員の中には、研修で学んだ演習を学級で行った者もあり、研修を実践につなげることができた。また、ベテランからも、今さら聞けないことを研修で確認することができて良かったとの声があった。

(3) 分掌別研修（「特別の教科 道徳」の教科化に向けて）

「特別の教科 道徳」の教科化に向けて、話し合い活動（協働学習班）を毎時間取り入れた授業、ワークシート、振り返りシートについて、道徳教育推進教師から提案があり、全校で実践を行った。また、実際に生徒のワークシート、振り返りシートに基づいた評価を行い、次年度に向けての改善点について研修を行った。今まで、各学年の道徳担当や担任まかせになっていた道徳の授業について、全員で話し合う機会を持つことができ、教科化に向け足並みをそろえることができた研修となった。

(4) 次年度に向けての課題

教科別研修については、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、質の高い授業を地域に発信していくために、引き続き研修を進める必要がある。

今年度、学校評価に課題として挙がっていた、特別支援教育（通常学級における特別な支援を要する生徒への学力支援も含む）については、学校力向上サポートキャラバン授業などを活用して研修を進める必要がある。

来年度から全面的に実施される「特別の教科 道徳」についても、引き続き研修を行う必要がある。